

第8回学校運営協議会議事録

1 会長挨拶・会の趣旨

各委員がそれぞれの立場で学校に関わっている1年間の協力に感謝された。また、学校理解を深めた上で意見を出し合うことの重要性を強調され、今後も継続的に良い協議の場及び学校と子どもを支える温かい会にしていきたい意向を伝えられた。

2 学校の様子について

報告(1) 児童の様子

3学期以降の子どもたちの学校での様々な様子を校長より伝えた。
ソフトボール大会：圧勝で連覇 卒業生や地域の応援があり良い雰囲気であったこと
ドッジビー大会：3位入賞 悔し涙など成長の姿が見られたこと 等

報告(2) 教職員の状況

復帰訓練対象教員は順調で、良い授業実施ができていること
教員異動については、3月20日に公表、お別れの会は3月19日のオンライン朝会で実施
離任式は新年度に実施予定

報告(3) その他

○道徳授業地区公開講座の実施について ○校内作品展開催中

3 道徳授業地区公開講座の講演「子どもの心と体を守るための教育」に関する報告

- ・学校運営協議会委員による講演を実施し、これまでで最も参加者が多く85名の参加があった。
- ・講演では、性に関わるテーマにも踏み込んだ導入があり、強いインパクトがあった。
- ・「子どもの心と体を守る教育＝性教育」として、率直かつ本質的な内容が語られた。
- ・子どもが実際にどのように感じているかという“生の声”の提示が、保護者に強く響いた。
- ・特に若い保護者層の共感が大きかったと捉えている。
- ・アンケート未実施のため、今後は回収方法の工夫が必要である。
- ・本校の取組は、単なる事案対応で終わらず教育へと発展させた点で先進的である。
- ・教員の受け止めから始まり、「心と体の教育」を柱として体系化した点が評価された。
- ・夏季期間を活用して校長主導で方針策定し学年ごとの実践へ展開された。
- ・各学年の実態に応じた授業づくりが行われた。
- ・今後、継続的なカリキュラム化（積み上げ）が期待される。
- ・他校のモデルとなる可能性がある取組であると捉える。

4 図工作品展（地域連携）

- ・6年生の作品を地域の西部公民館で展示（2月27日から3月15日まで）
- ・1年間かけて制作した作品であり、児童の意欲向上につながった。展示決定後、児童の制作意欲がさらに高まった。作品は塗り直し可能な素材を使用し、思考や表現の変化が見られる。児童の個性（継続型・変化型）が表れている。学校として見学機会を設けることを検討する。今後は、地域・保護者への周知（チラシ・メール配信）を実施する。

5 学校評価報告に関する説明（校長）

- (1) 豊かな心について
 - ・今年度、重点項目として推進したことで、児童・保護者の評価は高い。
 - ・教員評価は、学校と家庭の差異からやや慎重な見方である。
- (2) 確かな学力
 - ・ICT活用（タブレット活用率91.2%）が他校より高水準であり、授業内での共有・プレゼン等の活用が進んでいる。
 - ・活用の質（モラル面含む）への指導継続が必要と捉えている。
 - ・教科担任制の成果を公開研究協議会で発信できた。
- (3) 健やかな体
 - ・マラソン・縄跳びなどの継続的取組
 - ・休み時間の外遊びの様子は良好である。
 - ・体育では「その場での肯定的評価」を重視した指導に取り組み、個々の児童の運動意欲の向上につながったと捉えている。
- (4) コミュニティ・スクールの推進
 - ・実際の活動に対する児童や保護者の理解はあるが、児童の活動認知は約7割
 - ・情報モラル教育や心と体を守るための教育推進の連携実績あり
- (5) 特別支援教育の推進
 - ・校内教育支援センター別室（通称：ケヤッキールーム）では、保護者からの感謝の声あり
 - ・特別支援教育への認知度はアンケート設計の改善により、認知度が高まった。
 - ・ケヤッキーとのだんらんで校内通級教室の体験的な内容理解の促進を図る機会として好評
- (6) 人材育成の推進
 - ・若手教員向けミニ研修（年10回以上）を協調が実施
 - ・対話型・実践型の研修で効果あり
- (7) 組織運営
 - ・学校評価を学校運営協議会で検討する取組は効果的であった。
 - ・1年間かけた検討プロセスは評価できる。
- (8) 健やかな体に関する意見（協議）
 - ・運動が苦手な児童への配慮の必要性が指摘された。「体を動かさない児童＝否定」と受け取られないか懸念される。表現への修正提案がされた。
→「好きな子・そうでない子」などの表現へ変更案
 - ・運動嫌いの要因として過去の強制的指導の影響の様子が共有された。
 - ・運動することに対してネガティブな経験を生まない工夫の重要性も共有された。
 - ・一方で「挑戦の機会を与えること」も重要との意見があった。現在は体育的活動において強制的指導について減少しているとの認識が共有された。
 - ・休み時間に校長・教員が児童と共に遊ぶ姿は好意的に評価された。
 - ・運動することだけでなく多様な過ごし方（読書・室内活動等）の尊重も必要という意見を共有
- (9) 学習支援・地域連携に関する意見
 - ・放課後学習支援の必要性（特に中学年算数）
 - ・地域人材・学生ボランティア活用の提案
 - ・九九など基礎学習への支援モデルの紹介
 - ・家庭での学習支援が難しいケースへの学校補完の必要性

- ・タブレット活用（反復学習）も有効だが、教職員や見守りの大人の声かけが重要
- ・既存の取組（朝学習・個別支援）の継続と発展が課題

(10) 特別支援教育に関する意見

質問：教員には特別支援教育の研修を受ける機会はあるか。

- ・教員の研修機会はあるが、参加は任意の側面あり
- ・中堅以上の教員の学びの機会確保が課題
- ・今後、教職員は特別支援教育の知識・理解についての研修機会は必須

6 CS年間活動計画・運営に関する協議

(1) 年間開催回数・頻度

年間約6回程度の会議を想定した。今年度は月1回ペースで実施していたが、やや多い印象だった。来年度は約2ヶ月に1回程度を基本とする方向性である。

今年度は、学校評価・情報モラル・心の教育など重点テーマにより回数増加していた背景あり

(2) 会議日程・時間帯の工夫

これまで：17時30分開始が多かった。

改善案：昼・夜など時間帯を分散 学校公開日午後を設定

目的：参加しやすさの向上

(3) 行事との関係

主な行事：運動会、ケヤッキーとの水遊び、学習発表会の年3回程度

2学期は行事が集中しており10・11・12月は毎月実施で負担感あり

(4) 体験型企画（焚き火の集い等）

○焚き火の集いについて今年度は見送った。

代替案・アイデア

焼き芋体験（消防署へ届出の上実施例あり） キャンプファイヤー的活動

子どもが火に触れる機会の意義 移動教室での機会減少を補う意味

○実施時期の検討

冬：強風と乾燥の課題あり 夏：焚き火不可 候補：9月末（やや暑さあり）

(5) 実施形態の柔軟化

学校休業中の出勤日に合わせる案なら教員参加しやすい 地域・保護者も参加しやすくなる可能性

全員参加にこだわらない運用も検討

(6) 日程調整に関する意見

水曜日午前は参加困難な委員あり 土曜日開催の可否も検討 全員の都合を完全一致させるのは困難

→ 現案を基本に調整

(7) 次年度体制

現CS委員に引き続き依頼予定 継続的な関係性を重視

(8) 学校・教員との関わり強化

課題意識：教員の「生の声」を直接聞く機会が少ない

改善案：学年担当教員がCS会で直接報告 課題事案ごとに担当教員が説明する。

他校でも実施例あり

7 その他

- (1) 「作文と教育」という教育誌に本校のコミュニティ・スクールのことについて寄稿文が掲載されていることを周知
- (2) 校庭の粉塵による健康被害防止のための請願書をコミュニティ・スクールとして市教委に提出することの承諾。併せて、PTAからも請願書を提出
- (3) 今後の予定について
 - ① 卒業式 令和8年3月25日
 - ② 令和8年度 入学式 令和8年4月8日 午後
 - ③ 第1回学校運営協議会 令和8年4月15日 10時